充実した生活とは？　やりたいことがあること！　一生勉強だ！

生涯学習

人生に潤い・喜び・充実のため生涯学習の推進を

研究を進めていきます

島﨑隆夫 議員

質問 生涯学習拠点の充実に向けて、町内の現状把握と町民ニーズを知る努力を。

答弁 生涯学習課長　施設と機能の見直しを進めていきます。

質問 人生の充実には健康であることが第一。そのためには、体力の維持や向上が大切である。利用しやすい体育施設の充実とシステムの構築に向けて研究を。

答弁 生涯学習課長　ほかの自治体の事例等から研究を進めます。

質問 ユネスコ無形文化遺産に提案された細川紙だが、本美濃紙の美濃市、石州半紙の浜田市と友好都市を締結し、決定の日を迎えるべきでは。

答弁 生涯学習課長　両保持団体との交流は行なっており、締結はいつでもできる状態だと考えています。

知識の泉＝図書館

質問 小川町生涯学習推進町民協議会の構成と役割は。

答弁 生涯学習課長　一般公募と学識経験者により構成され、効果的な推進のために協議を重ねて、その結果を町長に提言していきます。

質問 あおいしいきいきサポーターを生かすために、募集や活用方法を含めて研究し、再検討を。

答弁 生涯学習課長　検討をしていきます。

質問 図書館サービスの向上と利用促進のために、実態に合った統計の取り方と生かし方は。

答弁 生涯学習課長　精査して進めます。

熱中症対策

行政の取り組みが熱中症を防いだ

820人に熱中症予防グッズを配布

高齢者皆さんの健康と意欲が大きなパワーになるんですよ！

山口勝士 議員

質問 熱中症計の配布状況と効果、今年の猛暑の状況などから、今後さらにどういう取り組みが求められているのか。検討は。

答弁 健康増進課長　昨年6月に820名の方に湿温度計など熱中症予防グッズを配布。この結果、65歳以上の救急搬送者は、昨年4名、今年は2名でした。今後も民生委員による定期的な訪問、地域愛育会等と隣近所における見守りを実施していきます。

町民みなさんのひろば

わたしのひとこと

本欄に対して思うこと

前高谷　水上俊明（みずかみとしあき）

本欄に対して思うことがあります。１つ目は、本欄の意見が実際に議会に反映されたことがあるのかという点。２つ目は投稿者の氏名・居住地区の明記と顔写真の添付の必要性です。

ここで書かれた住民の意見に対して、議会側の取り組みや回答が記載されるようであれば、自覚を持って投稿すると思います。

本欄は匿名によるネットへの無責任な書き込みとは違い、投稿者の文責があるので記名は必要であるという考えがあると思いますが、性別・職業程度の記載を希望する住民も存在する可能性もあると思うので、この点についても今後検討していただけたらと思います。

議会だよりを発行する側が、本欄の役割をどのように考えているかという点と、投稿者が書く内容は密接な関わりがあると私は思います。

変化のとき

深田　小野寺重雄（おのでらしげお）

少し気になることがあります。公共建築物で、使用されていない建物の活用を急ぐべきではないでしょうか。建物は放置されると傷みが早く、使用できなくなります。観光施設・事業用施設として、モデルとなる施設は全国にたくさんあります。

道の駅の有効利用も含めて、関連づけできる要素は多々あります。財政面が改善されてきた町政において、攻める時期に来ているのではないでしょうか。民間の力を活用して再生を考えていただきたい。小川町には、埋もれた観光施設がたくさんありますが、残念ながら連携していくという発想がありません。

豊かな自然を有効に使いながら、都心から近距離の利点を生かしてください。人が集まらない場所を放置しないで、集まれる場所を提供していきましょう。

行政の方々にお願いがあります。日本中いろいろな場所を見に行って、見識を深めてください。

東小川地区住民との協議を大切に

質問 上野台中学校の東中への統合、今回の校舎跡地利用計画の混乱など、こうした経緯の中、今後町は東小川地区の現状と課題をどう把握し、どういう方向、手立てを考えていくのか。

答弁 政策推進課長　上野台中学校の跡地利用、空き家管理、高齢化の急速な進展、買い物弱者、路線バスの維持確保など、どの課題も第一に地元の皆さんの理解が得られなければ進められるものではないと認識しています。先ごろ地元で取ったアンケート結果の還元と合わせ、皆さんの意見を伺いながら、一緒に方向性を定め、地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

高齢者皆さんの元気が町を支えます

ユネスコ申請の意義は

質問 細川紙のユネスコ無形文化遺産登録申請は、当町にとってどのような意味・価値を持つのか。また、持たせるのか。

答弁 生涯学習課長　今回申請の石州半紙、本美濃紙と連携し、手漉きの伝統技術をどう残していくかという責任。また来町者の増加見込みなど、今後できる準備を進めていきたいと思っています。